

科目名	国際交流ファシリテーター2/ファシリテーター演習2	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	山田 裕史、佐々木 寛		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-01-A-1-220023	国際学部C：新潟の地域社会にあつて学術的素養を日々に活かす方途をたえず探索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること			
授業の目的	<p>21世紀に要求されるのは、他者と共に、臨機応変に創造的な活動を展開することができる、総合的な人間力です。単に前例を倣い、知識や指示を一方的に受容・伝達するだけの生き方や学習方法は、あらゆる分野で行き詰まりをみせています。この授業では、「ワークショップ」と「ファシリテーション」等の新しい手法を用い、参加者が実際に身体を動かしながら、自ら主体的に学ぶことを第一義とします。</p> <p>この授業を経験することで、さまざまな「他者」のなかで、さまざまな議題やテーマを柔軟に「コーディネート」する能力や、民主的なリーダーシップを発揮する真の知的・社会的能力を養うことができます。この授業では、たとえば「世界の現実」「世界の不平等」「異文化理解」などの3つの大きなテーマに即して、国際理解を深めます。</p> <p>この授業の合格者は、新潟県国際交流協会から「国際交流ファシリテーター」の委嘱状を授与され、同年度の9月と2月に県内の小・中学校、高校で国際理解を目的としたワークショップを実践することになります。</p>				
学修到達目標	基本的に、自分ひとりでも国際理解に関するワークショップを運営展開できる能力を身につけること。				
実務経験との関連性	さまざまな場所でファシリテーションを実践している教員が、理論と実践の両面からファシリテーションの技法を紹介します。				

授業計画	
第1回	ガイダンス：「国際交流ファシリテーター」概要説明、年間スケジュール、自己紹介シート配布
第2回	「国際理解教育」、「ワークショップ」とは
第3回	学内講師による講義：①「世界の現実」、②「世界の不平等」、③「多文化共生」

第4回	チーム分け、チームでのアイスブレイク
第5回	プレゼンテーション①『ワークショップ』（中野、2001年）
第6回	プレゼンテーション②『これからはじめるワークショップ』（堀、2019年）
第7回	招聘講師によるワークショップ①
第8回	招聘講師によるワークショップ②
第9回	招聘講師によるワークショップ①、②のふりかえり
第10回	招聘講師によるワークショップ③
第11回	招聘講師によるワークショップ③のふりかえり
第12回	学生による模擬ワークショップ中間発表①
第13回	学生による模擬ワークショップ中間発表②

第14回	学生による模擬ワークショップ①
第15回	学生による模擬ワークショップ②
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配付資料の予習。
【復習】時間・内容	2時間。資料の不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	出席回数と授業参加態度（30%）、および参加者が発表する模擬ワークショップ（70%）を合わせて総合的に評価します。
フィードバック方法	模擬ワークショップに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	青木将幸『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50』ほんの森出版、2013年 石川一喜・小貫仁編『教育ファシリテーターになろう！：グローバルな学びをめざす参加型授業』弘文堂、2016年 中野民夫『ワークショップ：新しい学びと創造の場』岩波新書、2001年 堀公俊『これからはじめるワークショップ』日本経済新聞出版社、2019年 堀公俊『ファシリテーション入門〈第2版〉』日本経済新聞出版社、2018年 ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、2004年 その他の書籍は授業中に紹介します。
受講上の留意点等	国際交流ファシリテーターを目指す学生は必ず履修してください（必修科目）。本科目は、単に授業に出席するだけでなく、その準備のために多くのエネルギーと時間を要します。地域社会に成果を示すため、本学を代表する覚悟と自覚が必要です。
JABEE	